

編集発行責任者 吉田 和彦

〒125-8506 東京都葛飾区青戸6-41-2

TEL:03-3603-2111 (代表)

URL:http://www.jikei.ac.jp/hospital/katsushika/

INDEX

01. 診療科紹介
02. 部署紹介 薬剤部、認定看護師の取り組み
03. 連携病院のご紹介
04. パーキンソン病市民フォーラム開催、公開セミナーを開催しました
葛飾医療センター医療連携フォーラム2018を開催致しました

● 年末年始 休診日のお知らせ ●

年末年始は12月29(土)より1月3日(木)まで休診となります。
今年度より休診期間が変更となりましたのでご注意ください。

診療科紹介



呼吸器内科

児島 章
診療部長

葛 飾区を含む東京都城東地区医療圏には、呼吸器内科を標榜する総合病院は少ないこともあり、当院への地域からの呼吸器診療の要望は高いものがあります。当院呼吸器内科は、日本呼吸器学会の認定施設で、6名の呼吸器専門医のもと、あらゆる呼吸器疾患に 대응するよう努力を続けています。御紹介いただく患者様の内訳は、胸部異常陰影、咳嗽・喀痰(血痰)・呼吸困難といった呼吸器症状などが多くを占めます。急性期の救急症例は、救急部と連携して診療をおこなっています。疾患として気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、急性/慢性気管支炎、間質性肺疾患、急性肺炎/胸膜炎、膿胸、肺癌/中皮腫など、良悪性を問わず広く対応しています。特に肺癌治療は、胸部外科、放射線治療部と連携して対応しています。さらに、最新の分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬も導入され、進行肺癌への対応も備えています。

診療実績
平成29年度

- 疾病別入院患者数(主なもの:平成29年1月~12月)
- 肺癌…736例 ● 肺炎・胸膜炎…42例 ● 間質性肺炎…29例
- 喘息・慢性閉塞性肺疾患…8例

現 在は、常勤医7名・非常勤医3名(うち日本眼科学会専門医6名)で、診療にあたっております。当科は、地域の中核病院しかも急性期疾患を扱う病院として、特に診療をお断りしている疾患は無く、眼科全般を対象にしております。手術やご紹介頂く疾患としましては、白内障が最も多く、加齢黄斑変性・網膜剥離や糖尿病網膜症などの網膜硝子体疾患、緑内障、流涙症など多岐にわたっております。加齢黄斑変性、糖尿病網膜症や網膜静脈閉塞症による黄斑浮腫に対する抗VEGF薬硝子体注射も積極的に行っております。

更に、斜視や弱視などの小児眼科診療にも力を入れており、視能訓練士と連携しながら、検査や訓練を組んでおります。必要に応じて、新橋の慈恵医大附属病院の専門外来とも連携しながら、診療を行っております。

また、水曜日の夜間には救急診療を行っておりますが、他の曜日でも網膜剥離や緑内障発作などの急患を受けておりますので、まずは、ご一報いただければ幸いです。

診療実績
平成29年度

- 新患数…約1600名/年
- 手術件数…約1400件/年:白内障627件、硝子体手術116件、緑内障手術24件、抗VEGF
- 薬硝子体注射413件など



眼科

高橋 現一郎
診療部長

部署紹介 薬剤部

葛飾医療センターの診療支援部門のひとつ、薬剤部をご紹介します。

当院では、より安全で適正な薬物療法をお受けいただくために、国の政策に基づき院外処方せんを基本としています。

院外処方せんを発行したことで、私たち薬剤師は入院患者様の薬物療法に力を注ぐことができるようになり、服薬指導（お薬の説明）や薬歴管理、注射薬の無菌調製などに仕事の幅を広げてきました。特に、当院の特徴である入院前面談に薬剤師も関わり、入院後の手術や検査を安全に受けてもらうために、患者様から伺ったお薬の情報を医師に伝え、休薬などの指示に繋がっています。面談の際には必ずお薬手帳をご持参ください。

その他にも抗菌薬の体内濃度モニタリングによる治療の評価や処方提案、各種チーム医療（感染制御、栄養サポート、がん、緩和ケア、糖尿病など）の中で活動しています。薬の専門家として、24時間365日より安全で適正な薬物療法の提供に貢献しています。



勝俣 はるみ 課長



認定看護師の取り組み

地域の患者様のニーズに応える救急看護

私は認定看護師として急な体調不良で受診される患者様の、心・体・社会など救急受診をせざるを選なかった状況を擁護者として理解した上で迎え入れ、この受診をきっかけに生活を振り返る機会になったり、大きな変化を次は小さな変化の時点で気づき、行動に移すことができるようになることを大切に関わっています。

当院の患者様は多くの合併症をもって入院される方も少なくありません。そのため、状態が悪化すると重篤な状態になる可能性があり、患者様の生命力の消耗を最小にするためには、小さな変化に気づき早期に対応して行く力が必要となります。そういった看護師の“気づき”の力はとても重要なスキルの一つです。

私は外来患者・入院患者を問わず、小さなサインに気づき対応することで患者様の状態の悪化を最小限にできるよう医療チームのサポートとしてRRSN (Rapid Response Support Nurse) :院内迅速対応サポートナースのチームメンバーとしての役割も担っています。スタッフが自らの“気づき”に自信をもって発信でき、患者安全につながるよう支援し、患者様へ還元できるよう活動していきたいと考えています。どうぞお気軽にご相談ください。



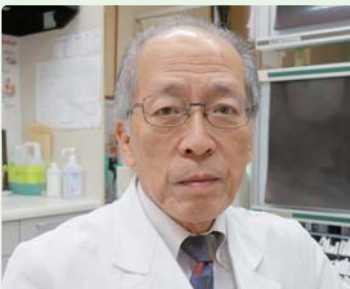
連携病院のご紹介

かつしか江戸川病院 院長 岡田 尚之

当院は、葛飾医療センターのある青砥から高砂橋を渡った高砂にある小規模な病院です。病院数60床のうち、一般病床23床、地域包括ケア病床37床を持ち、地域の方々が住み慣れた地域で生活を続けることに貢献するための病院を目指しています。

院長の私が整形外科医ですので、入院では整形外科疾患の患者さんが常に半数以上を占めております。土地柄が高齢の方で、腰痛や膝痛の訴えがある患者さんが非常に多いと感じております。また、江戸川病院スポーツ医学科の医師が外来診療をしていることもあり、地域のスポーツ青少年の治療、リハビリに力を注いでおります。内科常勤医もおりますので、地域からの内科疾患での入院受入れに対しても、地域の開業の先生方からご紹介をいただいております。

葛飾医療センターとは病院の機能も異なりますが、連携を図りながら葛飾区をはじめとする地域に住まう住民の方々の健康に貢献して参ります。まだまだ知名度も認知度も低い当院ですが、今後とも何卒よろしくお願い致します。



南郷外科・整形外科医院 院長 南郷 明德

当院は1949年（昭和24年）葛飾区堀切に外科診療所として開設しました。

現在は整形外科を主科としていますが外科も診療するようにしております。私は二代目の院長です。父である初代院長の頃から通院して下さっている患者さんが今もいらっしゃいます。診断機器としてはコンピューター制御のX線撮影装置、骨塩量測定装置を備え、治療機器には温熱療法器具、各種牽引器、低周波治療器などを設置しております。骨折、脱臼や腱鞘炎、創傷などに対する手術的処置もできる限り行うようにしております。近隣の内科、婦人科、耳鼻咽喉科、皮膚科などの

さまざまな診療科の先生方と交流を密に行い、診療の連携も図っております。

華々しい最先端医療や大手術などはとてもできませんが、より高度な診断や治療を必要とすると考えられる患者さんは慈恵医大葛飾医療センターなど大学病院、総合病院などにレントゲン写真などを添えてご紹介するようにしています。京成電鉄の堀切菖蒲園駅から5分ほどの所で交通の便が良いとは言えませんが、受診された方に来た甲斐があったと思って頂ける診療を心掛けております。



パーキンソン病市民フォーラム開催

平

平成30年10月20日(土) かつしかシンフォニーヒルズにおいて、パーキンソン病友の会共催、市民フォーラム「パーキンソン病を知る」を開催いたしました。本会は神経難病であるパーキンソン病患者とご家族様に、病気についてより一層の正しい理解を深めて頂くことを主旨としており、例年約200名以上参加者がおられます。

講演Iでは神経内科余郷麻希子先生より、パーキンソン病の運動症状と非運動症状についての概要を丁寧に解説して頂きました。講演IIでは品川リハビリテーション病院リハビリテーション科部長の高木聡先生より、日々のリハビリの重要性や心構えなど解説して頂きました。講演IIIではトレーナーの菅原利之先生にリハビリの具体的な方法を解説頂いた後に、ステージで患者様の協力を得てコンディショニングの実演をして頂きました。この新しい方法論であるコンディショニングについては、東京都パーキンソン病友の会の荒川支部において6月に開催された患者会においても好評を得ていたもので、今後も広く普及させていきたいと考えております。

現在のところパーキンソン病は根治療法がありませんが、よりよい療養生活が少しでも長く継続できるよう、京都大学で進められているiPS細胞治療に大きな期待を寄せながら、最新かつ最良の医療を患者の皆様様に提供できればと考えております。

●神経内科 診療部長 鈴木正彦



公開セミナーを開催しました。

平成30年9月7日(土)に当医療センター5階講堂にて、第50回葛飾医療センター公開セミナーが開催されました。

テーマは「尿をみつめる」

●第1部:泌尿器科 山田 裕紀 診療医長 「トイレとQOL(生活の質)」

●第2部:看護部 相磯 美弥子 「尿もれ対策で生活が変わる」

の演題でお話を頂きました。参加者は129名で参加者からの活発な質問もあり、大変有意義な時間になったと考えています。次回は第51回(平成31年2月9日)を予定しております。

詳細が決まりましたら改めてご連絡させていただきます。

葛飾医療センター 医療連携フォーラム2018を開催致しました

葛

飾医療センターは患者さんの紹介や医療に関する講演会を通じて、地域の医療機関(診療所や病院)との連携を行っています。この医療における連携を強化する目的で、平成30年11月10日(土)、当院にて「慈恵医大葛飾医療センター医療連携フォーラム2018」を開催致しました。当日は地域の医療機関の方々に多数ご参加いただきました。ご参加頂きました皆さまにはこの場をお借りしまして、あらためて御礼申し上げます。

9回目となります今回の医療連携フォーラムは、特別講演として吉田和彦院長より「院長就任挨拶」、「認知症について」と題して、神経内科診療部長の鈴木正彦、認知症認定看護師の石田和代よりの講演を致しました。

院内外から120名を超えるご出席頂きました。

第二部の懇親会では当センターの各診療科診療部長の挨拶があり、ご参加頂いた先生方と懇親を深めました。普段は電話や紹介状でしか連絡をとれない先生方と直接会って話す機会を得て、「顔の見える医療連携の推進」を図ることが出来ました。

この医療連携フォーラムは次年度以降も開催予定です。さらに充実したフォーラムになるよう企画して参りますので、今後ともよろしくお願ひ致します。